

2024年コンサートまで

44 日

練習はあと

7 回

DMC 団員の皆さん

定期演奏会まで、今日を入れてあと 7 回の練習となりました。

各自いろいろ課題はあろうかと思いますが、一回一回の練習を充実させ、取り組んでいきましょう。

民謡八木節は暗譜できましたか。それ以外もしっかり顔をあげて先生の指揮についていけるように頑張りましょう(文責池田)。

【定演の曲紹介 2】

今回は 2 ステージの民謡ラプソディの紹介です。

(定演パンフ原稿より転載)

混声合唱とピアノのための民謡ラプソディ

【八木節】

江戸時代、日光例幣使街道(京都から日光東照宮への勅使が通った道)沿いにあった旧八木宿(現在の栃木県足利市内)から全国に広まった民謡で、歌詞は国定忠治や鈴木主水などを扱った人情物が有名。その起源は、越後(今の新潟県)十日町に実在する「新保広大寺節」を発祥として、越後から上州に出稼ぎに来ていた女性たちが故郷を懐かしんで歌っていた節を、八木宿に往来していた馬方(今でいうトラック運転手)が真似て歌ったとされるが諸説あり、今も伊勢崎・前橋・高崎周辺での祭事で盛んに唄われている。

全体の曲想は、お決まりの歯切れのよいリズムとテンポを合唱が表現している一方、ピアノのシンコペーションのリズムが民謡とは異色の世界観を醸し出していて、これが聴きどころである。

【河内音頭】

河内地方と呼ばれていた大阪府北東部南東部地域の民謡で、エレキギターやシンセサイザーを駆使するなど他では類を見ない洋楽を織り交ぜた音楽性豊かな語り芸として全国に広まっている。明治時代初期に北河内地方で活動していた「歌亀」という音頭取りが考案したものが現在よく耳にする河内音頭の原型であるが、音頭取りの名を冠した「鉄砲節」「初音節」など、様々ナリズム(=節)の河内音頭が存在する。

関西出身者が多い我々にとって、馴染み深い民謡ではあるものの、それ故あまりにドラスティックなリズムの違いに戸惑うところも…。果たして今日はうまくリズムに乗った聴き心地のよい演奏ができるかどうか、乞うご期待！

【こきりこ節】

富山県南砺市五箇山地方に伝わる民謡で、農作業の間に行われた田楽や田踊りなどから派生したと伝えられ、日本で最も古い民謡の一つとされる。「こきりこ」という長さ七寸五分(約23cm)ほどの竹の楽器や、「ささら」という竹の先を細かく割ってつくった楽器を使い、五穀豊穣を祈願して歌われた。1995年「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として世界文化遺産に登録された美しい合掌造りと共に、地元で大切に伝承されている。

本日の演奏では、自然と思い浮かぶこの民謡の情景をうまく表現したい。

【ソーラン節】

北海道、特に積丹半島から余市郡にかけての地域に伝わる民謡で、ニシン漁の際に歌われていた作業歌が起源となっている。各工程に合わせた作業歌があるが、その中の沖揚げ音頭(タモ網を使い、ニシンをすくい上げる際の掛け合い)が転じて、ソーラン節になったといわれている。

現在、我々がよく耳にするソーラン節は昭和期に今井篁山(いまいこうざん)という民謡家によって編曲されたものとされているが、小中学生の運動会の団体演舞の定番となっている「南中ソーラン節」など、さらにロック調やポップ調にアレンジされて後世に伝承され続けている。

本日のソーラン節も、同じく合唱界での定番として、永く歌い継がれることを願って演奏したい。

【委員会からの連絡】

● 来年の定演の会場、曲目が決まりました。

幹事長から紀尾井ホール改修に伴い 2025 年から利用できなくなることはお伝えしていたとおりですが、先日杉並公会堂の抽選に見事に当選し、2025 年定演の場所が決定しました。

それと曲目についても以前検討状況をお話ししていましたが、委員会でバッハの口短調ミサ曲に決定しました。

【2024 コンサート】

日時:2025 年 10 月 4 日(土)

場所:杉並公会堂

曲目:BACH 口短調ミサ

● 7 月に団員登録票の改めての提出をお願いをしていました。

まだ提出頂いていない方は佐脇幹事長、池田かお近くの委員までご提出ください(記入用紙がないかたは佐脇幹事長か池田まで)。

ご協力、よろしくお願ひします。

以上

----- 最後までお読みいただきありがとうございます。

定演の成功に向けて頑張っていきましょう！-----

※この情報は DMC ホームページの団内掲示板にも掲載します。